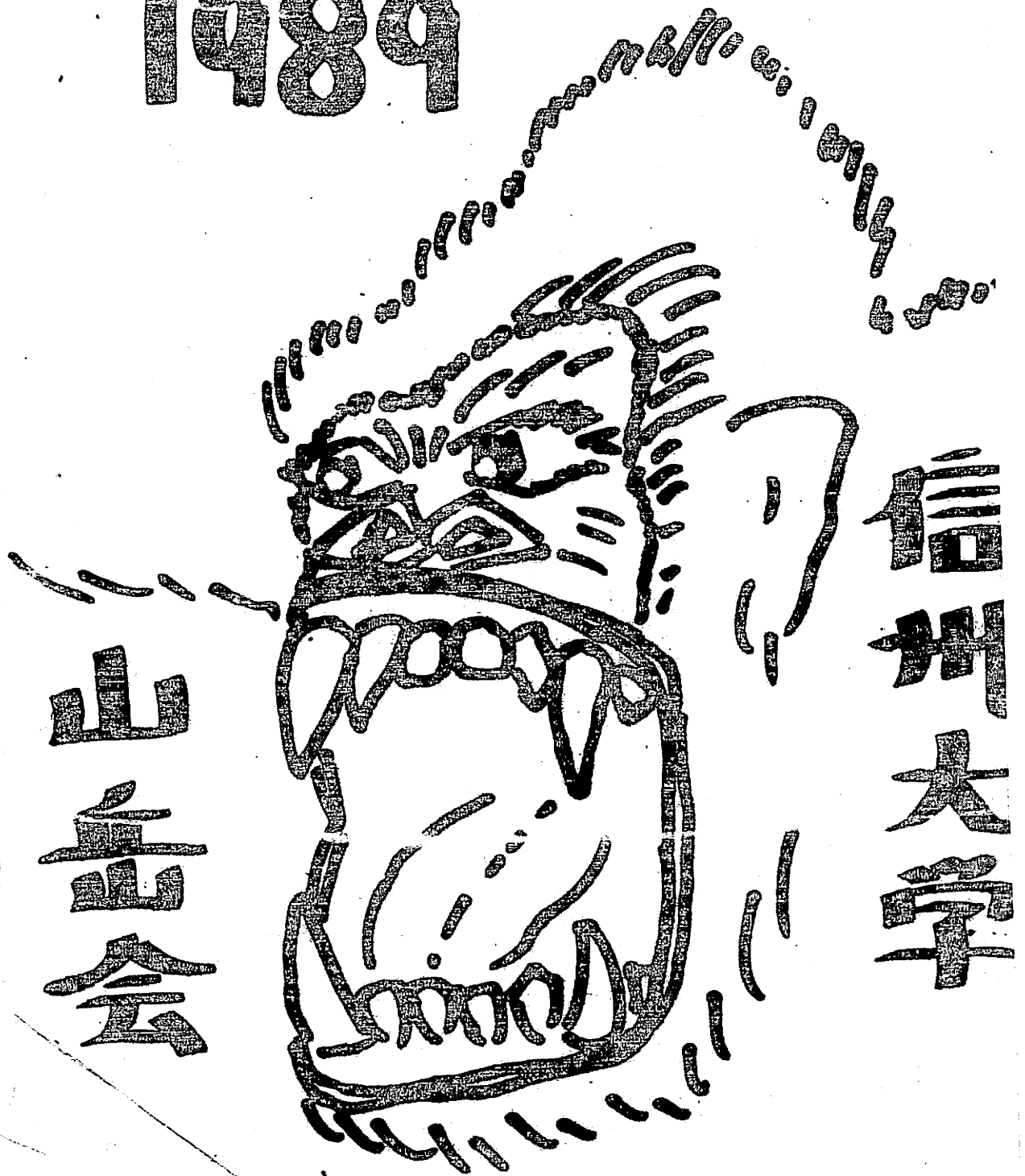


# 新人台宿报告書

1989



山岳会

信州大学

## リーダーの言葉

浦山の墜落事故の救助活動において緊急時の判断力、行動力が大きく欠如していることが明らかになった。リーダー及びリーダー部員としては、あらゆる状況を想定し、予め学習検討しておかなければならないことを痛感した。今回の事故を機に、救助体制を再度確立し、リーダー部員の意識向上を図りたい。

今年の新人合宿は、天候には恵まれたものの雪の状態がきわめて悪く、リーダー部員は勉強になったと思う。

2年生は合宿中はよく頑張っていたが、準備段階ではまだまだ力不足を感じる。準備の時から合宿は始まっているということをしっかりと頭において置くこと。

1年生はよく頑張っていたが、これから夏に向けてさらに登攀意欲を高め、どんどん山に行ってもらいたい。

みなさんご苦労様でした。

—下平—

もくじ

行動記録

1~11

反省

12~20

作文

21~26

行動-1

12.6

5/28

A 18-元

4-F

下干, 牧野, 植垣, 長谷川,  
北住, 永井

- ① 6:00 砂防ダム 発
- ② 6:37 二俣  
瀬戸沢周辺から雪成あり
- ③ 9:45 岩魚留小屋
- ④ 2:07 徳本峠
- ⑤ 4:17 白沢 1650m 地点 (雪成なし)
- ⑥ 5:05 天場 (白沢出合)

感想: 徳本峠の登りには十分にキリ:7"がきて痛いな。  
徳本峠の降りではキリ:7"がきて痛いな。  
河原川(17.7.危うい下。 <水井>  
(北住)

B 18-元 L 内田 松下 兼岩 橋口 田尻  
山内

- ① 6:00 砂防ダム 発
- ② 6:00 二俣 着
- ③ 9:13 岩魚留小屋 着 朝食(パン2枚分)  
お茶11分間
- ④ 13:35 徳本峠 着 昼食(パン2枚分)

⑤ 16:17 白沢 1650m 地点

⑥ 17:05 天場 (白沢出合)

感想: 鳥谷を登る途中の位置把握ができてよかった。  
でも、徳本峠を退きるときは、まはりに気をつけよう。  
キリ:7"は肩に要ってきて、痛い。(田尻)

C1P-77- 乙洲山 小久保 加藤 永亮 劇村

① 5:55 名所リム発

② 6:31 二俣着

③ 9:10 岩魚止小屋着

④ 13:45 徳本峠着

⑤ 16:05 幕営地

感想：徳本峠まで歩いた。途中で、(劇村) 右に歩くと、  
左に歩くと、(幕営地) まで歩いた。

D1P-77- L 服部 小野 河西 吉井

藤江

① 0555 砂防ダム発

② 0633 二俣

③ 0930 岩魚止小屋

④ 1355 徳本峠

⑤ 1705 幕営地

感想 「徳本峠以降は楽だ」という先入感が  
あったので峠以降 身共緊張感がぬ  
けしまりのなりの歩いた。(藤江)

5月29日 起床 4:00  
全員行動 (下平、浦山は宝積寺へ)

- ① 6:25 白沢出合幕宮地出発
- ② 7:20 徳沢目着
- ③ 8:15 新村橋上 前穂東面の説明
- ④ 9:45 横尾 B.C 着

感想 朝の一本道が方なり歩かかほやく、月夜の景色に目さる。こぼれ雪、前人の足元だけを見つけた。新村橋上、前穂東面の説明の時に見上げた雪のついた岩壁群はとてし高かった。(小滝)

宝積寺登山隊 L 下平 浦山

5/28 徳本峠で本隊とわかれ

- 14:30 ● 徳本峠麓
- 15:10 ◎ 明神
- 17:40 横尾 B.S

5/29

- 4:55 ◎ B.C
- 5:55 ① T<sub>4</sub>尾根取り付
- 6
- 6:55 T<sub>4</sub>
- 7:25 登山開始
- 7:40 事故発生

雲後 1ピッチ目を 10m 程度登ったところで 浦山がリード中 歩いて  
いたホルトが 投げ墜落。腰と足を強打し 動けなくなる。  
下平は 浦山を T4へ 下す。

その後 シーバー 交代時間まで 待機する。

10:15 ① 1回目 シーバー 交代  
1時間 待期 することを伝える。

11:15 ① 2回目 シーバー 交代  
サポート 隊 2名 を 要請。

15:40 ① サポート 隊 T4 着 (ホルト 中村 松下)  
浦山を 背負って 下降 することに 決定。11:30 の 雪渓 下  
降のため の サポート を さらに 2名 要請 する。(16:15)

16:30 ② 下降 開始  
T4 から 5ピッチ (10, 50, 25, 45, 45) 懸垂 する。  
浦山は 下平が 背負い 松下 中村は、ザイル セット  
と 荷下がり および 下平の サポート を 行う。

18:10 ③ T4 屋根 リバース  
11:30 の 雪渓 上で 浦山を シュラフに 入れ ザイルで 確保  
し、下降 の 準備 を する。

18:30 ④ 雪渓 下降 開始

19:15 雪渓 末端

20:15 B.C 着

事故 発生 原因、救助 活動 及び その 問題点 など 詳しい  
ことは 事故 報告書 に 由る。

(下平)

5月30日 起床5:00

途中まで全員行動途中で2パーティーに分かれる

○ 7:10 BC 発

○ 8:55 洞 天 着

その後 2:30 まで洞 天 まで雪割

○ 2:50 洞 天 発

○ 3:30 BC 着

感想

洞 天 まで11kmにペースがとて早く走っている感じがした。  
雪割のときやったキックス、少し足を上げるとのびがた  
あがりながら最後のセットだけが行った (標高)

5月31日

起床 2:00

途中から2パーティ。午後、7:00まで別行動。  
あとは合同

Aパーティ 下平、服部、植垣、加藤、小野、  
兼名、橋、小滝、長井、北住。

- 4:10 B.C 出発
- 4:55 ① 横尾本谷上
- 10:00 ① 昼メシ
- 11:05 ① 自出のツル
- 11:30 ① 洞沢ヒュッテ
- 2:40 ① B.C 着

感想：左足の筋が切れた方が多い。  
顔がヒリヒリして辛い。

Bパーティ 内田、小久保、牧野、河西  
長谷川、駒村、藤江、吉井  
山内、田尻

- 4:10 B.C 出発
- ① 4:55 横尾本谷上
- ① 6:25 洞沢ヒュッテ着
- この間雪割
- ① 8:40 洞沢岳まで 200m 地点

雪割

- ① 11:05 自出のツル
- ① 14:40 B.C 着

感想：洞沢に行くつもりで死んでしまったのにパーティの一番  
一番おそかった。おかげでトレッキング不足たつた。



5/31 下隊

L 内田 牧野 加藤 河西

アイトの北で雪割途中から別行動

○ 9:30 迄

○ 10:10 白出コル

Fix 工作 コンテ 2本目で村らがる

○ 12:00 白出コル

本隊と合流

奥穂 7/4 分の手ごわい スノーバー 11-7

はたが不足していた

(河西)

6/1 Cパーティー (奥穂隊)

L 小久保, 兼岩, 長谷川

○ 3:40 B C

○ 5:20 涸沢

○ 7:05 白出のコル

○ 7:55 開始

雪壁 IP スタカト, あとはコンテ

○ 9:25 奥穂山頂

○ 11:15 白出のコル

○ 12:00 涸沢 A, B パーティと合流

○ 13:40 B, C

雪壁 IP 以外は問題なし。しかしアイトのな  
一坪生は無理である。登攀とはちがうといえず。  
あまりおもしろくなかった。(記兼岩)

6/1 B10-ター

橋口、水井、田尻、小野  
 △内田、阪部、植垣、小野(途中からA10ター) 吉井(途中からA10ター)

- 3:45 BC着
- 4:40 横尾本谷上
- 5:55 洞沢
- 10:00 五・六の川
- 12:40 洞沢
- 1:50 BC着

六峰のピークにまでなく残った、た橋が崩れて  
 きれた(橋口)

6/1 A10-ター

△下平、牧野、松下、河西、小野(途中から入る)、吉井(途中から入る)、  
 新村、藤江、山内、北塚(洞沢ヒッテまで行橋)

- 3:45 BC着
- 4:40 横尾本谷上
- 5:55 洞沢ヒッテ
- 6:05 雪割開始 (8:45 終了)
- 10:15 五・六の川
- 11:15 六峰
- 12:40 洞沢ヒッテ
- 13:45 BC着

今日の洞沢ヒッテまでの直日たいへんきつかった。  
 △下平、△下平、五・六の川下で直上をやるのはめいなるとは...  
 (新村)

# 行動-8

Date

6/2 Bパーティー

△ 牧野・小久保・河西・兼岩・加藤  
野村・吉井・山内・藤江

- 4:30 B.C 発
- 5:25 奥又白谷下
- 6:45 松高尾根 (7:00 2ピッチ)
- 7:20 奥又白池上
- 雪訓開始
- 10:00 (11:55 終了)
- ① 12:05 松高尾根
- ① 2:15 奥又白谷下
- ① 14:55 新打橋
- ① 15:35 B.C 着

松高尾根はけし、雪が少なきつた。  
疲れがたまて、足がカクガクである。  
合宿もあしつしてある 頑張ろう。

6/2 Aパーティー

△ 内田・松下・小野・長谷川・橋口・北住・田尻、  
小滝、水井

- 4:30 B.C 発
- 5:25 奥又白谷下
- 6:46 松高尾根 (7:00 2ピッチ)
- ① 10:00 奥又白池上
- ① 10:10 雪訓開始 (11:45 終了)
- ◎ 12:05 奥又白池上 発
- ◎ 14:40 奥又白谷下
- ◎ 15:55 B.C 着

感想 松高尾根は、危険なところが多く、慎重に登りた  
ければ存りた。その辺が、悪れた。  
前宿もあと残り2日。最後で、かやりのり。〈氷中〉

6/2 C1c-下  
L下平 植垣  
屏風岩 東空 雪接ルート

- 4:20 B.C. 発
- 5:10 T4 取付 下部  
↓ 1P コー
- 6:20 T4
- 6:40 登攀開始  
↓ 6P (一歩)
- ① 11:20 登攀終了
- ① 11:45 下降開始  
↓ 5P
- ① 12:45 T4  
C1c-下 1P の行機 ↓ 2P
- ① 14:15 T4 取付 下部
- ① 14:45 B.C. 着

3P目の人工は高度感があつたぶん、  
このほど岩がつかれをあげて落ちてくる。  
また下を思いつくかたは、  
雪を示すかたは、

6/3 L下平 服部兼岩 植垣 河西 長谷川 駒村 吉井 山内 藤江  
橋口 北柱 田尻 小滝 永井

- 4:20 B.C.
- 5:20 -1 俣
- 6:20 檜沢 ロック
- ① 10:15 檜 肩 二 檜 岩 ヒート
- ① 16:00 発
- ① 18:30 B.C.

感想

10:15 下平 岩 植垣 河西 長谷川 駒村 吉井 山内 藤江  
橋口 北柱 田尻 小滝 永井

6/3 屏風登山隊 山内田 牧野 (東後)

4:10	B.C 発	} (6p. 大森とあり)	} 気晴
5:30	T4 和10時		
7:00	T2		
13:00	終		
東後(4p) T4尾根(3p) 17:30 下降			
16:00	B.C		

初めの岩壁はたのびきりなりました。(牧野)

6/3 福か岳登山隊 山内田 保加藤 小野

6:00 本隊の出発  
 9:15 山頂 山頂に準備を糖700g  
 16:00 下山開始  
 18:30 B.C

後3から怒り声を上げて、来る本隊が福か上。

6/4 山内田 全員

- ① 9:40 B.C 発
  - ② 11:15 徳沢発
  - ③ 12:35 上高地
- } 山内田 全員

山内田 全員 17:30 下山開始 17:30 下山開始 (河)

## 反省

## I系の反省

## 装備

ガソリン 10L 65ml/人日 (たき火 5L)

メタ 8本 11本/日

ローヤ7 1/14本/日 × 6

天長園 35枚 5枚/日

シュリ=ケ 12本 (残置)

ガスホリ 1ヶ (焼失)

ガスは余裕をもたせて多めにもらいたかも、と少なくてよかった。  
登山用具は十分たっていたようだ。フタの調子は良好。

長谷川

## エッセ

失敗はすべてずさんな計画にあり、来年のために注意しておく

パンミミは数日前までに丸正パンに電話しておく

ラーメンのたぐいとヒルメシのビスケットは足りなくなり易い  
から数日前に松本部員に買って置くよう頼んでおく

ダンバコチェックとカイタミはなるべく上級生と一年生がペア  
になってやるとよい。

初日の晩飯はすばやくつくりたいので煮込まないものがよい。

<例>カマメシとワカメ/シヨシル

マカホチはカラシマヨネーズだけだとまずい

初日はカラシマヨネーズをパーティゴトもたせる

今回野菜リストというものを試作したがないほうがよかった。まねしないように。

日持ちする野菜 タマネギ、ジャガイモ、ピーマン、サトウイモ  
日持ちしない野菜 ナバナ、ハクサイ、シーアワ

<まとめ> おかまは無視せよ計画ははやめに

小野

会計

### 会計報告

収入 270,000 円

支出	エッセン	132,030 円	1718 円/日人
	装備	16,588 円	721 円/日人
	酒・その他	7,460 円	
	交通費	111,560 円	
	蒲山代 (TEL)	1,340 円	

計 268,978 円

兼岩

残 1017 円は、松本部費に。

高橋雄希 氏、古賀 氏、三野 氏 からカンパをいただきました。ありがとうございました。

## 個人の反省

前々夜、一睡もしなかったのと、前日の徳本峠を越えての横尾入りで、29日は動前から睡眠不足による体調の悪さを感じていた。

屏風は初めてで“絶対登る”と考えていただけに、朝1時間寝坊したことで“時切れ敗退”を気に掛け、T4までかなり無理をした。おかげでT4に着いたときは、なりしんどい状態だった。

雲稜に取りかかるがとにかく体が重い。登り始めからプロテクションを多めに取っていた。墜落地点まで取り付きから10mくらい。少し岩が突き出たところで、踏むためのハンドホールドが見つからず少しと惑っていた。時間を無駄にはできなと思い、フリーで越すことをあきらめ、残置ボルトを使いA0する事にした。それにリングボルトでまだ新しく、根元まで埋まっていて見た目には問題なく、指で回すのが動かない。安心してヌンチャクをセットし体を引きあげる。するとボルトの込み方向に加重がかかった瞬間スポンとあっさり抜けた。空が回り、すぐテンションがかかる。しかし空は再び回り初め、岩棚に右足の先を思いきり打ちつけ、宙吊りになって止まった。腰に激痛が走り、ゼルバンでぶら下がっていられなかった。す下平さんに取り付きまでザイルダウンで降ろしてもらおうが、足と腰の痛みで立て平らなところまで這って行った。

横になりしばらくするとだいぶ楽になったが、立つことはおろか少し動くだけ激痛が襲った。下降を始める頃になると、少しだけ体の自由がきくようになった。

今回の事故原因を僕なりに考えてみると、第一に基本的なミスを犯したことにボルトなりピトンなりを前進手段に用いるなら、それがホールドになる訳だから、けるようなピンを使うのは浮き石をつかむのと同じで、墜落の許されないトピーでは絶対に行なってはならない。それにもかかわらず、浮き石をつかんでしまったのである。指で回らないというのはチェックになっておらず、ハンマーの柄を使い、力を掛けてチェックしてみれば危険なボルトだとわかったかも知れない。(それも抜けたらしかたないが)

次に考えられるのが、その場所でA0しなければ登れなかったことである。そのヒチはIVで、岩トレの状況だったらフリーで越せたはずである。しかし、体調不良時間に対するプレッシャーが、そうした余裕を失わせていたのではないだろうか。

以上が僕の今回の事故に対する経緯と反省である。



今回はお目付役とのことで気楽に構えていたが、浦山の事故で一気に救助活動にかかわる事になった。SACは自力の救助能力があると思っていたが決して十分な能力があるとは云えなかった。そこををよく考えてより発展的に今回の事故を総括して、今後の会の力を延ばして欲しい。個人的には念願の残念期のスキーが楽しめて大変嬉しい御座居ました。皆様 稽の肩から雪崩を起しちゃってごめんね。  
(中村 たかし)

今回、事故があったわけだから事後の筆記件断等 4年生 部員として大いに反省すべき点があり考えさせられた。全体としては天気は悪くも新人にとってはいい合宿だったと思う。  
(内田)

入山して2日目長かけてみたリヤカーに乗って上高地へと向かっていた。今合宿はリーダー 部員になって初めての合宿であったが、1日目の徳本でしか、皆と一緒に行動できなかった。会全体に迷惑をかけてしまったので、それに報いるためにも1つこの努力を重ねていきたい。  
(三浦山)

今回の合宿はリーダー 部員として初めての山行だったが、上級生もなかなか大変なものだと感じた。合宿中の天気にも救われ、行動については満足なものだと思ったが、全体として存分に思いをした  
(2クホ)

。天気恵まれて毎日行動できて良かった。  
 。的確に物事も判断し、行動でき  
 きよりに精進したい。(牧野)

今回の合宿は天候に恵まれてたへん良かった。しかし1年生の指導に  
 いた面で随分個人としては反省しなければならぬ。やはりリーダー部員  
 としての自覚をもっと持つべきであつた。もと緊張してこれからは合宿に  
 ぞめた。

ハツトリ

リーダー部員として初めての合宿であつたが、その自覚に  
 欠いて、活発な働きがでできなかった。これからは、もと  
 新人指導に気を配りたい。8日間好天に恵まれた  
 のは、大変良かったと思う。 松下

反省

2年生として、もとかんかんたにR.P.を  
 き、なおかつ、ルートファインディング等の注  
 意がでできなかった。  
 英穂のとき、サイル操作が、まだ完全で  
 なく手間ど、てしまった。(兼、岩)

徳本の登りで持病の腰痛かててしまい動けなくなりました。  
最近腰痛かててはかたためてゆたんしてました。

長谷川

もっと一年生にくどくど言った方が良かったと思っている。  
合宿では個人の性格があらわになって自分や他人というものが非常によくわかる。はてたとかはてなからたということと同じように体力のほかにも自分に欠けている所があったのではなにかいということも考えてみるといいと思う。 小野孝博

2年生ということ、積極的に前に出なくてはならないのにそれができなかった。また1年生にも、いろいろな言うべきであったと思う。全体的に他人まかせであった。しかし全日行動したということ、去年とほちがたに充実感があった。

加藤

- ・ 2年生として、トップをやる積極性に欠けた。
- ・ 一年生に、エッセン中など、もっとくどく言うべきだったと思う。
- ・ 屏風岩を登りてきた。
- ・ 雲梯ルートはおもしろい。AOをしてしまつて残念。

植垣 健太郎

今年も晴天が続く。槍のピークも踏むことができて  
なによりでした。

初めて下級生と山へ行くとめ、合宿前の緊張感は  
いつもの山行以上だ。たし、合宿中も今の自分の力を  
ほぼ出しきれたと思っます。しかし、絶対的な力量  
はまだまだないので、今の自分に妥協せず、も、と  
も、と上を目指した個人山行に励みた...と思っます

(河西)

新人合宿に関する反省 田尻 英秋

新人合宿の反省で思いつくことは、やはり、反省会の時、先輩方から多く指摘されたにもかかわらず  
自分の体力、技術の未熟さのことばかりである。ピッケルストップなど練習時の状態で大丈夫が、  
クワートは、雪の蹴り込み方は等々...。無論、新人合宿で雪山技術を完璧にしなければ  
ならないのではなからうが、どうも冬山に対して一抹の不安を感じる。

日々の練習は正直、平かた。失敗するたびに、先輩から叱責を受け、惨めな気持ちに  
なつたものだった。それと、靴ずれがひどくなったのが、おなから一日の練習を終え、B.C.に  
戻る時、靴ずれの痛みと、靴ずれをがはおうとして歩くことで足が余計につかれることで、前の  
人についていくのに必死な思いをした。

しかし、おなからつらいからこそ、日々の練習に何か張り合いを感じられたものだった。又、  
快晴下と、例年にならぬ積雪量は、辛くもあたが夏の山と全く様相を異とする春の山を臨み、  
良い経験となった。

最後に、技術の未熟さというおなから、おなから、以前に目標にしていた冬山に文おなからは思  
い入れが少なくなつて、むしろ沢登りへの憧れが強まってきたことを山行おなから帰つて以来  
痛感おなからなってきた。高みの世界のみならず、深みの世界も。昔おなから亜熱帯、熱帯地方の沢  
(日本の屋久島等)におなから興味おなからあつたが、最近おなからまた強まってきた気がする。

以上

今回の新人合宿でおなから、自分は先輩の足もとばかりおなから追いついて  
いた様おなからなす。ただおなからついていくおなからだけで、他に何  
おなからともおなから考えおなからたことおなからできなかった。だから山の中おなから歩いていても、周  
りおなからを見おなからる余裕おなからなく、実際おなから自分おなから今おなからどこにいたおなからのかおなからおなから  
らおなからなつた。おなから更に雪訓おなからであるおなから、自分おなからでやっおなからておなからあまりおなから  
おなからなつたおなから、たおなからせいおなから、どうおなからともおなから難おなからになつておなからしまつた。例えば、キックステップおなから

これは、ただ単に足の上げ下ろしを繰り返しているだけで、用心な蹴り込みがしつかり出来ていないように思う。あと天気因なども合宿前の練習不足のため、野間ルルルの上になんか書けないという情けないものであった。今回の合宿は、こんな受身身的なものではなく、もっと積極的なものにしたと思う。

駒村 泉利

小竜顕也

新人合宿が終わった！合宿前に自分なりにトレーニングしたり、意識的に体を動かして調整をしたつもり。かなり体にこたえた。しかし初めに踏切組んだ雪山は、脳みそが沸き上がったような印象が心に残った。初めに洞沢カールの底に立ち戻り、雪の稜線ははたけに落ち、自分の足跡が数時間かかると数日後に記されるのと思うと、心からドキドキしていた。それにしては、カールの完全な勢での直上・斜上・直降・斜降・トラバースは、ほんとうにぐんぐん繰り返したほうが、上級生の熱心なアドバイスと怒声で、それだけこれが重要な基本動作であることがわかって感じた。また、グランドで靴底の斜面にフラットな状態を維持や横滑りでのスムーズなエッジング、カールのスローでは足が雪面に付かない状態での反転とエッジングがなかなかうまくいかず、ととう最後まできれいに止めることができなかったのは残念だった。

一般の生活技術の面で、決められた出発時間や作業の終わりの時間に遅れることが多く、自分の要領の悪さを、さびけ出してしまったように感じた。人取しい気がする。更に、自分にとって今後の最大の課題となったのは、30kg以上の重い荷物長時間背負って歩けるだけの体力を身につけること。これがしかりできるようにするには、縦走合宿などで泣きまみることになるのだ。

・体力がなくて、いつも登りになるとバテていた。トッポで歩く時にも他の人より距離をかせることができなかった。

合宿を通して、自分のトレーニングの甘さや精神面の甘さがよく分かったし、疲れると、安全面を欠く行動をしてしまうことが分かった。

橋口 徹

合宿が終了。合宿の前に一応トレーニングをしたつもりだったが合宿では、バテてしまった。もとトレーニングをしなくてはならないと思ふ。あとパークキングがへたなのでもととましくなくてはならない。下界では天気図はあまり書けたが山で書いてみるとひどいものになる。もと練習はうと思ふ。靴がぬがえてしまった。もと早めにカムテープをはいておけばよかった。うむ前に消毒しとけばよかった。

山上に登る理由とつらさは色々あるが、その中の一つは頂上に立つ時の満足感というのがある。僕の場合今日は満足感というものはほとんどありません。合宿は僕が山行の目的の訓練と割り切っていたがこれには意外な結果であった。今年度後4回の合宿が残っているが、在学中にアフリカとマフィアの山に登ってみたいと思つておる。自分なりの研究を進める一方、目的は合宿に参加し、有意義なものにしたつと思ふ。

藤江

1日めはなかなか良かった。1回めの休日の時に腰がうごともさかなくなつた。ばくばく1日めの団装を脱いだので2日めはだいぶ楽に行つたが、しんどいことになりはなかつた。そして3日めは洞沢に行つたが、みんなについて行けなかつた。そのあと、ほとほとみんなについて行けなかつた。みんなをばせてやりたいと思ふたが、自出の丸に登つたあたりからはけっこう楽しくなつた。六峰に登つた時もうれた。橋ヶ谷の頂上に行つたときは本当にうれしかった。このトレーニング不足から体力がないのでこれからトレーニングをしようと思つたが、今はその前にリハビリをしなくてはならない。全く情ない。吉井勇夫

新人合宿は、とてもつかれた。一日目が終わればあとは楽だろうと  
いうおれの考えはあまかった。朝2時に起こされたくないのにどんぐりに  
いはのうとんをくわされて、バックホウをしながら川の方から「おめえ  
おじえい」とどなり声がする。便所に行く暇もなかった  
それから淵沢まで歩くのが本当につらかった。ほしんど小走りである  
雪がない所まではなんとかついていけたが雪がでてくると滑り足がつかれる  
「けこめ」と言わば石だとしたらおしりがつかれてうごかなくなってくる  
おれの横にはなせがいつも服部さんがついていてどなってくる  
初めはとておだたがしらいにはなれてしまてなんとも感じなくなっていた  
このころに淵沢について、もう楽になるだろうと思っていたがその考えをあまざ  
淵沢へくるときは雪が急に速く歩いてゆく頭がぼんやりして死ぬかと思つた  
雪の斜面を滑り落ちて雪前に巻きこまれたらとみなに楽になるだろうと思つた  
たから必死になつて雪面を登っていた。  
雪訓をやる場所につくとやと休めと思つたが松道にやらされる  
ほしんど小走り足がつかれた。あとおれはグライダーがへたなのでその  
とさほとておだたがしらいが「なにや、おれはこり」とかいてくるが  
どういふてきとうでどうもいかにいふてきとうだった。  
雪訓が終つてBCの川原でボーとして居る時が一番しあわせだった。  
目の前に見える扇風岩がスキい。いつか登りたいと思つた。  
一番最後の日は楽に歩けるだろうと思つたがキスリングがとてき重かった  
バックホウが思つたので腰がいたしてけこうつらかった。明神宮あたりまで  
は人があまりいなかつたがそれをすぎると人が急に増えた。楽しいにはあつた  
奴を見ておるとわかもなく腹が立たされた。心の狭いおれながらなごり分た。  
家へ帰つてからの2日は新人合宿のつらさにくらべての下界のつらさの楽に  
心の底がじんじんとした。

橋口

## 新登山行作文

田尻英秋の新登山靴ズレ日記

- 5/28 (日) 徳本峠越えの歩荷。夕方に微候表ある。笠井さんによると、軽いうちなら靴かするがよいとのこと。
- 5/29 (日) 横尾までの歩荷。今日の行程は楽だ。しかし後のマキ集めよりややである。
- 5/30 (火) 涸沢にて雪訓。そろそろ対策を練らねば。パンツウゴウを貼ってゴムテープを当てた。しかし体のうちこがまだまだ効く。
- 5/31 (水) 白出エルまで上がる。いよいよ痛みが激しい。本当に辛いのは、雪訓中ではなく、雪のない普通の山道である。結局刷りが遅れ、怒られる。
- 6/1 (木) 5.6エルまで上がる。体のうちこが効かない。帰りはなるべく雪のあるところを歩し、握りをとらないようする。けどこんな苦労、靴ズレの同志北住の靴ズレの先輩伊藤さんに比べれば……。
- 6/2 (金) 奥又白池行き。しまった、パンツウゴウの装備が切れしまつてしょうがない。トランプを当てた。同志北住は新村橋先でジョウカ改造手術！新村橋からの帰り辛そうに歩いた私も、その夜改造手術を受けた……。
- 6/3 (土) 一体私は何をする。槍くんだりまで行けるのでしょうか？下半身は歩けずと痙攣し靴ズレはひどく痛み。けど無事登頂。B.C.着、食かた良かった。しかし疲労困憊な私は、その夜不思議な踊りを始め、ヒンシュクをかえした……。
- 6/4 (日) 今日は最終日！しかし安心はしていない。徳沢園〜上高地ラリーがある。5/29の感勢の良ことは裏腹、じいさんおかしな話なし。それに昨日明神小屋から上高地までヤリに遠いぞ。でもね、上高地だ。上高地に入るとおバカの団体が話しかけてくる。好意にしてみよう。さうさうさうに登山、馬場に着くと、もう大文部、夕日乗場に着いたのだから。食かた、本当に良かった。

以上、書いておけないが、これが真実だったのだ。後代の諸君、靴ズレになると決定的に靴かか落ちる、気を付けて。それとパンツウゴウとゴムテープの装備はしっかりしよう。ニッ

(田尻 英秋)



「短かくていいから登かてタシだ！」「ほい!!」合宿仲間とこぼれも続くが  
 みえる橋沢を、凍めた体にムチうて、ぼくも人なしたたいた打登る。自分の荷が  
 来る膝打もぐりながら心死で上へ登ろうと、もがきもがき、やがて心臓の高鳴り  
 と足の筋肉の苦痛とも快感ともつかぬえとけられぬ境地に達して力尽きる。  
 そして脇へかけて Zwei の登り来るのを待たせ、もう一歩も力を入り度いこと  
 繰り返したろうか、橋の穂先が見えてきたという上、いやその前までだが、高度は確実に  
 緩んでいるはずが、それは直ぐに足くるが未だ走り、心と自分の長カ、人生を  
 飛び越え、高校時代のがむしうらに走りまくった陸上のインターバルトレーニングを  
 思い出す、自分がスラッパを切り、登りをして力尽きる。その瞬間は、あのゴール前  
 凝縮された状況そのものだった。トコを努める国教が重なるにつれてしだいに  
 道の辻、上級生の声かきあがり、ひとひらの雪の深まった橋の肩直下の  
 急斜面下で、リーダーが、一本の声がかり、待望の休憩となる。一点に  
 収束していた自分がしだいに立ち戻ってくる。山岳会のみんなの顔がやけに  
 real に心に映る。上級生の会話に耳を傾けがたくなる自分。そして他の一年生  
 もみんな口が重くなっている。カフの用ぶたが、レーションを取り出し、チョコレート  
 セリーなどを食べる。やがて氷筒が折れてきて水を飲む。カフに座って  
 ひとときぼんやりするともう出発だ。

今度は雪が深く、斜面が急で一年生の歩みが遅くなる。平行して列をなし  
 登る2年生、また上級生は、はやく、早くたて一年生は、あおられ、放した  
 肩が近づき、これで苦しい登りを終えようと思いきや、恐怖の「ビュッル構え!  
 直上はじめ！」が行っていた。緊張し、精一杯足を振り上げ、蹴りこんで  
 じれ、たくなるほど、ちよとすつ上へと登っていく。これが最後だと思つと苦しいが  
 妙にむなしいというが寂しいと感じた。直上を終えて一登りすると肩へ出た。  
 その時飛騨側から風が吹き、寒い平らな雪面だった。腐れ切っていたため  
 だろうか飛騨側の景色は素晴らしいかと思つていたほど、夕静にみづめていた。  
 これから登る橋の穂先と、憧れのヒマラヤ高峰の頂への想いがオーバード  
 した喜びの中に、厳しさがあふ不思議な気持ちかしていった。

### 小滝頭也

## 三重人格

文責 永井薫子

いさなり新人ゼミの時からおどかさされた。  
 徳本峠の登りは東京タワー 1往復半...  
 確かにあつた。(しかしその2週間後信研の  
 友人が登った...)。そして 本当の意味での  
 地獄は 合宿3日目からであつた...  
 魔の地獄: その1... 朝... まだねむいののに、パッと  
 ショウワを脱け出し 寒い中へあのあつた  
 朝食をとりに...  
 その2... 洞沢へ... 私にと、洞沢までの  
 登りはきついでなくてもものではなかつた。  
 その3... 三重人格... いやはや下界では  
 「おぼ、ちやあ、あじょうさまとかおいがられ  
 新人ゼミなど、とてもやさしかったのに...  
 雪上訓練は... どこか今までと違う、はきり  
 と違う。あそこまで変えられるのは、ひめの  
 プッコちゃんの変身以上にすごい!  
 そして最後の晩、みんなで飲んで、時の  
 変身の姿もすごかつた。

あれからすでに1週間も経てしまつた。私は今、BOXに  
 行くのが「きふふ」である。そしてすでに私が酒乱であ  
 るという「うわさ」も... 「きふふ」原因の1つである。  
 私は今、コゲてしまつた顔の回復と女子大生への復帰を  
 願っている。そして、あの魔の8日間からの脱出に不  
 としていて、長かつた...

永井は今だ止める気が起こらないのは何故か  
 自分自身分からずにいる...

合宿も終りに近づき、槍を目ざしたその日、私は  
 フィックス隊として槍沢を登っていた。下の方からはどなり声  
 がするが、どこのパーティーかは振りむくまでもない。  
 彼らにまきこまをまいと足を速めた。疲れたセークは過ま  
 っていたので脚は動いたが、連日照りつける太陽の  
 せいか、頭がガンガンした。頭はホーンとしていいるが  
 脚だけは条件反射のように動いていた。こうして長い  
 槍沢をつめ、フィックスを降りセークに立、たものの、今一つ  
 感動がわかなかった。ホリウを忘れたために、朝の茶  
 湯も水分を口にしていながら、のどが乾き頭痛がした。  
 さすがに3000mは、じとしていいると寒い。さらに数時  
 間セークに在り、あたふたと横尾に帰り、寒空の中で宴会  
 を行ったとき、私のカセは決定的なものとなった。下界に  
 降りると、そこでカセがはじ、っていた。そして私は今なお、

カセが気味である。

加藤

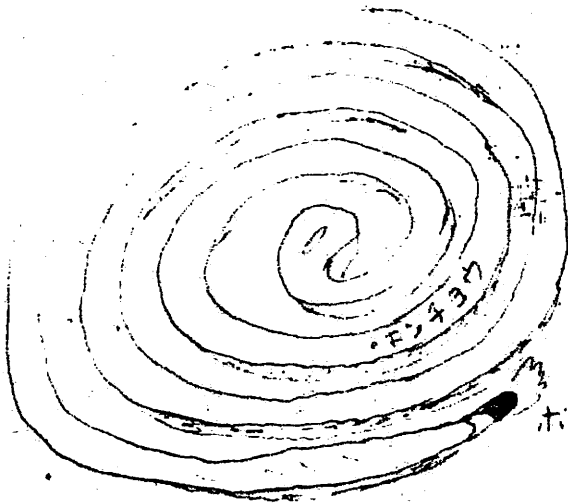
年ほとりたくないもので、スキーヒーツを背負って1年生に  
 ついていくのは大変であった。これは上級生のほ、たり抜き  
 での感想です。でもでも、荷物の重量差がかなりあるから、  
 爺もなかなか元気だな。まだまだ若い衆にゃ負けねえよ。  
 しかし、いざ下りになるとスキーの能力たるや原始的な尻  
 セードにゃ負けません。さすが年の功!!  
 そうなのである。5年も山を登っているとあちこち傷んで都合

が悪いのである。年寄りはまだまた頑張る。わたしはそれでもまだまだやりたい事がある。American Aide や Big Wall Climbing、そしてさらなる高峰登山。1年生はこんな私の繰り言をどくいう風に 受けるだろうか。1年間ほりあえず、続けてください。1年間なんてあっさりすぎてもうものさ。そうやって私は5年たってしまった。大学なんて短い。スーパークイミングがすべてじゃないが山で成すべき事はいっぱいある。1年生がんばれ!!

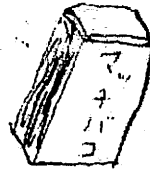
RS. 十石峠の企てにも参加するといひよ。




利本



利本



信州六甲山岳会

S. A. C. 

T. O.

発行 松本